

アカヒゲドクガ

春から初夏にナラ、ブナ、クリなどの葉を食べる大形の毛虫（幼虫）。最大長55mm。成長した幼虫には羽毛状の毛がある。道南ではブナに多発することがあると聞いている。



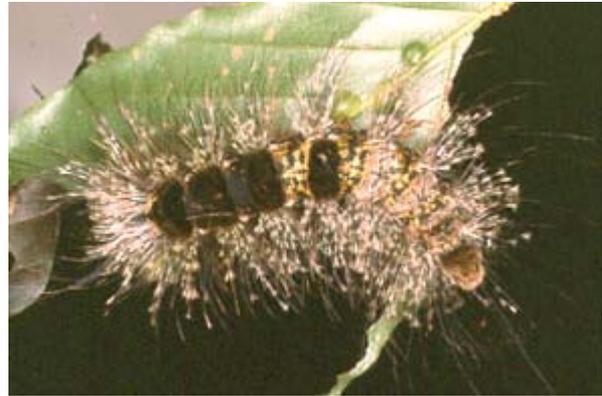
1. 中齢幼虫，体長18mm。1990/7/6。新得町，ミズナラ。



2. 老齢幼虫，体長38mm。1990/7/20。1を飼育。



3. 雄成虫，体長25mm。1を飼育。



4. 終齢幼虫。1986/7。ミズナラ。

【学名】 *Callitera lunulata*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) ， ドクガ科 (Lymantridae)

【分布】 北海道，本州，四国，九州，琉球；シベリア南東部，朝鮮半島，中国。

【特徴】

大きな幼虫は先端が羽毛状の毛があることで他のケムシ類から簡単に識別できる。

若い幼虫は腹部第1～4節各背面の毛束が後方のものほど小さくなること，腹部第8節背面の毛束が短いこと，体の側方には毛束がないことなどにより類似種から区別できる。

なお，色彩は変異があり，毛束の黒いものもある。

【生態】

宿主：コナラ，ミズナラ，クヌギ，クリ，ブナ。

本州では年2化，成虫は4～6月と7～8月に出現，幼虫は5～6月と7～9月に出現，若齢幼虫で越冬という。

北海道の低山地では6月下旬に中齢幼虫が採れ、飼育したところ8月上旬に繭となり、翌春に成虫になった。このため、北海道では年1化、蛹越冬、成虫は春に出現と考えられる。

【被害と防除】

ブナで多発することがあるらしいが、詳しい被害実態は不明である。落葉樹は一般に春から初夏に葉を失っても、半月ほどで葉を再生し回復するため、枯れることはほとんどない。このため、森林では多発生しても防除は普通必要とされない。

農薬による駆除が必要と判断される場合、適用できる農薬としては、庭木ではケムシ類用のレスメトリンのエアゾル（スプレー）、一般樹木（林木）ではドクガ類用のMEP乳剤、ナラではドクガ類用のDEP粉剤またはケムシ類（若～中齢）用のジフルベンズロン水和剤などがある。農薬は取り扱い説明書にしたがって使用し、通行人や近くの住民らに十分配慮すること。

【文献】

- 1958. 江崎悌三ほか. 原色日本蛾類図鑑（下）：I-V, 1-303, pls 65-136. 保育社, 大阪.
- 1965. 一色周知, 監修. 原色日本蛾類幼虫図鑑（上）：1-238, pls 1-60. 保育社, 大阪.
- 1982. 井上寛ほか. 日本産蛾類大図鑑. Vol. 1: 1-968; Vol. 2: 1-556, pls 1-392. 講談社, 東京.
- 1987. 杉敏郎, 編集. 日本産蛾類生態図鑑：1-453, pls 1-120. 講談社, 東京.

北海道立林業試験場・緑化樹センター

アカヒゲドクガ dokuga/akahige/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1991/12/9-2001/8/17.

1yochu1.jpg, 1yochu2.jpg, 1seichu.jpg

「写真1～3」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1990.

yochu1.jpg

「写真4」鈴木重孝, 北海道立林業試験場, 1986.